

科目名	作品研究 4							年度	2025
英語科目名	Arts research 4							学期	後期
学科・学年	ミュージックアーティスト科 2年次		必／選	選	時間数	30	単位数	2	種別※
担当教員	青野りえ		教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、プロデューサー、ディレクター	

#### 【科目の目的】

新時代のアーティストと作品の方向性、音楽、美術、写真、デザインなどの4つのアート形態を学び、考察力を養う。。また、自己認識を作品を通じて高め、セルフ・プロデュースのスキルを向上させ、アートの知識を自身の作品やパフォーマンスに応用するためのプランを立案する。

#### 【科目の概要】

音楽業界のありかたやエンタテインメントの将来を、メディア業界全体の動きに照らし合わせながら、新時代のアーティスト・作品のあり方について考えていきます。

#### 【到達目標】

- A. 音楽・美術・写真・デザインの中から4種類のアートについて学び、考察力を習得する。
- B. 作品を通して自分を見つめ、セルフ・プロデュース能力を高める。
- C. アートの知識を自分の作品やパフォーマンスに生かす企画を立案する。

#### 【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準=ループリック

ループリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル1 要努力
到達目標 A	音楽・美術・写真・デザインの中から4種類のアートについて学び、考察力を習得する		音楽・美術・写真・デザインの中から2種類のアートについて学び、考察力を習得する		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	作品を通して自分を見つめ、セルフ・プロデュース能力を高める		セルフ・プロデュースの意義を説明できる		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	アートの知識を自分の作品やパフォーマンスに生かす企画を立案する		授業で習ったアートの知識を説明できる		到達目標Cについてさらなる努力が必要

#### 【教科書】

特になし

#### 【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する

#### 【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はループリック評価に基づき、試験50%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表・提出物30%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		作品研究 4			年度	2025
英語表記		Arts research 4			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル		評価方法 自己評価
1	音楽と技術	社会変化の理解	1 音楽と技術	技術の影響を理解	3	
			2 アート動向	音楽アート関連性把握		
			3 分析スキル	分析手法を習得		
2	音楽の配信変化	社会変化の理解	1 音楽変遷	配信の影響を分析	3	
			2 配信影響	音楽変遷を理解		
			3 考察方法	批評的思考を養成		
3	トピック選定法	プレゼンの実践	1 トピック決定	研究トピック選定	3	
			2 調査手法	調査方法を学習		
			3 資料収集	情報収集能力向上		
4	プレゼン技術	プレゼンの実践	1 プrezen技法	プレゼン技法を習得	3	
			2 資料構成	資料構成を理解		
			3 表現練習	効果的表現を学習		
5	演習発表概要	トピック調査	1 幅広トピック	多様なトピック把握	3	
			2 興味関心	興味関心を反映		
			3 内容整理	整理評価能力獲得		
6	演習発表進行②	トピック調査	1 発表練習	プレゼン実践能力向上	3	
			2 評価準備	評価基準を理解		
			3 自己確認	自己反省を促進		
7	演習発表進行③	トピック調査	1 内容深化	アート全般を考察	3	
			2 質問対策	多様性を理解		
			3 反省点	改善点を特定		
8	演習発表進行④	トピック調査	1 多様性認識	アート理解を深める	3	
			2 改善提案	トピックについて討論		
			3 総合理解	総合的理を深める		
9	演習発表進行⑤	発表資料制作	1 範囲拡大	発表技術を向上	3	
			2 質疑応答	効果的質疑応答能力		
			3 応用力向上	アートへの応用力強化		
10	演習発表進行⑥	発表資料制作	1 まとめ技術	総合的まとめ技術習得	3	
			2 反省会	授業の振り返り実施		
			3 評価理解	評価基準への理解強化		
11	演習発表進行⑦	発表資料制作	1 成果共有	他者の成果を理解	3	
			2 レポート案	課題提出への指針理解		
			3 指導方針	テーマに沿った研究		
12	演習発表進行⑧	発表資料制作	1 テーマ設定	レポート作成技術向上	3	
			2 作成技巧	構成力の向上		
			3 構成力	自立した研究能力		
13	発表の総括	アートの変遷理解	1 自主研究	レポートの内容精査	3	
			2 内容精査	形式に即した報告		
			3 形式選定	自己検証能力の向上		
14	レポート課題提示	発表のフィードバック	1 報告能力	レポートの最終チェック	3	
			2 検証力向上	提出に向けた準備完了		
			3 最終調整	総括的理解を確認		
15	まとめ	レポート作成法	1 完成度チェック	独自分析の実践	3	
			2 提出準備	学期内容の整理		
			3 今後への展望	最終レポート指導		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等